

## [研究会記事] 歴史地震研究会だより 2012 年 7 月 ~ 2013 年 6 月

歴史地震研究会幹事会

### 目次

|   |     |
|---|-----|
| 1. 前号以降の歴史地震研究会の活動(2012年7月~2013年6月)と今後の予定 | 171 |
| 2. 第29回歴史地震研究会(2012年9月14~16日,横浜大会)関係      | 172 |
| ・ 第29回歴史地震研究会報告                           |     |
| ・ 第29回歴史地震研究会 総会議事録                       |     |
| ・ 2011-12年度決算報告の修正版                       |     |
| 3. 幹事会議事録                                 | 182 |
| ・ 2011年度第4回歴史地震研究会幹事会(2012年7月30日)議事録      |     |
| ・ 2012年度第1回歴史地震研究会幹事会(2012年10月9日)議事録      |     |
| ・ 2012年度第2回歴史地震研究会幹事会(2012年12月10日)議事録     |     |
| ・ 2012年度第3回歴史地震研究会幹事会(2013年2月7日)議事録       |     |
| ・ 2012年度第4回歴史地震研究会幹事会(2013年4月12日)議事録      |     |
| ・ 2012年度第5回歴史地震研究会幹事会(2013年6月28日)議事録      |     |
| 4. 第30回歴史地震研究会(2013年9月14~16日,秋田大会)関係      | 192 |
| ・ 第30回歴史地震研究会講演申し込み案内                     |     |
| ・ 第30回歴史地震研究会プログラム等                       |     |
| 5. 各種お知らせ・資料                              | 199 |
| ・ 『歴史地震』原稿募集のお知らせ                         |     |
| ・ 歴史地震研究会会誌編集規程(2012年8月8日改定)              |     |
| ・ 歴代研究会開催地一覧                              |     |
| ・ 歴史地震研究会への入会手続きのご案内                      |     |
| ・ 歴史地震研究会会則(2012年9月15日改定)                 |     |
| ・ 歴史地震研究会功績賞内規                            |     |
| ・ 歴史地震研究会役員および委員名簿(2013年7月1日現在)           |     |

---

### 1. 前号以降の歴史地震研究会の活動(2012年7月~2013年6月)と今後の予定

#### 2012年

- 7月30日(月) 2011年度第4回歴史地震研究会幹事会(地震予知総合研究振興会)
- 9月14日(金)~16日(日) 第29回歴史地震研究会(横浜市 横浜開港資料館ほか)
- 10月9日(火) 2012年度第1回幹事会(地震予知総合研究振興会)
- 12月10日(月) 2012年度第2回幹事会(地震予知総合研究振興会)

#### 2013年

- 2月7日(木) 2012年度第3回幹事会(地震予知総合研究振興会)
- 4月12日(金) 2012年度第4回幹事会(地震予知総合研究振興会)
- 6月28日(金) 2012年度第5回幹事会(地震予知総合研究振興会)
- 9月6日(金) 2012年度第6回幹事会(地震予知総合研究振興会) = 予定
- 9月14日(土)~16日(月・祝) 第30回歴史地震研究会(秋田市 秋田大学手形キャンパス) = 予定

## 2. 第 29 回歴史地震研究会 (2012 年 9 月 14 ~ 16 日, 横浜大会) 関係

### 第 29 回歴史地震研究会報告

2012 年 9 月 14 日(金)から 16 日(日)にかけて, 横浜市の横浜開港資料館他において, 第 29 回歴史地震研究会を開催しました. 1 日目および 2 日目に研究発表会を行うとともに, 3 日目午前には, 「横浜・関東大震災の痕跡をめぐる」と題した横浜港界隈の見学会, 同日午後には, 「神奈川の関東大震災 地震学と歴史学の視点から」と題した公開講演会を実施しました.

研究発表会には, 例年を大きく超えた昨年(112 名)をさらに上回る 125 名(うち非会員 50 名)の参加があり, 35 件(口頭 29 件, ポスター 6 件, 1 件のキャンセルは含まず)の発表が行われました. 1 日目夕刻には, 横浜中華街において懇親会が開催され, 55 名の参加がありました. また, 3 日目午後の公開講演会には 167 名の参加があり, 盛会のうちに研究会を終了することができました.

会場: 横浜市 横浜開港資料館(研究発表会口頭発表), 横浜都市発展記念館(同, ポスター発表)  
横浜市開港記念会館(公開講演会)

日程: 2012 年 9 月 14 日(金) 終日: 研究発表会, 夕刻: 懇親会  
9 月 15 日(土) 終日: 研究発表会, 夕刻: 総会  
9 月 16 日(日) 午前: 見学会(横浜港界隈), 午後: 公開講演会

### プログラム

9 月 14 日(金)

津波堆積物 (10:15 - 11:30)(\*は発表者, 以下同じ) 座長: 小松原琢

1. 平川一臣\*・川上源太郎・田近淳・廣瀬 亘・深見浩司: 日本海東縁の巨大津波履歴: 北海道奥尻島の古津波堆積物
2. 千葉 崇\*・石辺岳男・佐竹健治・島崎邦彦・須貝俊彦・西山昭仁・原田智也・今井健太郎・行谷佑一・上野俊洋: 浦半島江奈湾で採取された過去 4000 年間の津波堆積物
3. 藤原治\*・青島晃・北村晃寿・佐藤善輝・小野映介・谷川晃一郎・篠原和大: 元島遺跡周辺(静岡県磐田市)で見られる 4 世紀から中世にかけての津波堆積物
4. 宍倉正展\*・安藤雅孝・中村 衛・涂陽子・新城安尚: 石垣島における掘削調査で観察された 1771 年八重山津波(?)堆積物
5. 樋口茂生\*・東将士・稲田晃・伊藤彰秀・岩本広志・上加世田聡・川崎健一・楠恵子・佐藤伸司・品田正一・末永和幸・渡邊拓美: 現代生成層 - 人工的二次堆積物の性状と震災との関係 -

ポスター発表 (13:00 - 14:00)

6. 藤原治: 関東地震に関連する津波堆積物の研究: 現時点のレビュー
7. 金幸隆・熊木洋太・佐竹健治: 三浦半島南部の地形調査・堆積物調査から推定された過去複数回の関東地震による上下地殻変動と津波
8. 佐藤善輝・藤原 治・小野映介・矢田俊文・海津正倫: 浜名湖西岸の浜名川流路跡で見られる中世以降の津波堆積物
9. 青島晃・柴田達哉: アンケート調査による 1944 年東南海地震の静岡県太田川低地の液状化発生地点
10. 水田敏彦: 1914 年秋田仙北地震の人的被害に関する資料について
11. 白石睦弥・檜楨貢・丹野正・佐々木純一郎・野澤敬之・大山祐太: 東日本大震災八戸市被災 3 地区の調査結果

関東の地震 (14:15 - 17:00) 座長: 宍倉正展 / 千葉崇

12. 磯田道史\*: 鹿島大宮司日記から新出した地震記録とその考察 元禄関東地震の地震動を中心に

13. 松浦律子\*: 1894年10月7日などいくつかの古い地震の震源変更
14. 萬年一剛\*・五島朋子・浪川幹夫: 大正関東地震による鎌倉・逗子の津波高 新資料と国土地理院数値標高モデルに基づく再検討
15. 中西一郎\*: 1923年関東地震直後の京都大学の活動: 京都大学に残る記録(3)P波初動分布と震源
16. 松本洋幸\*: 関東大震災と小学校 横浜市南吉田第二尋常小学校・寿小学校を中心に
17. 吉田律人\*: 関東大震災における犠牲者のゆくえ 横浜市域の遺体処理と慰霊・追悼
18. 青木祐介\*: 関東大震災による煉瓦造建造物の被災状況 横浜を事例として
19. 武村雅之\*: 石碑が語る関東大震災
20. 羽鳥徳太郎\*: 2004年, 2005年房総沖地震津波と歴史津波
21. 石辺岳男\*・酒井慎一・島崎邦彦・佐竹健治・鶴岡弘: 2011年東北地方太平洋沖地震後の南関東における地震活動と歴史地震の震源域への影響

18:00 ~ 懇親会(横浜中華街, 広東飯店)

9月15日(土)

越後・近江・丹後・豊後の地震 (10:15 - 11:45) 座長: 白石睦弥

22. 河内一男\*: 越後の古代図に見る津波記録の検証
  23. 西山昭仁\*: 天延四年(976)京都・近江の地震における被害実態
  24. 松岡祐也\*: 1596年豊後地震による各地の被害の再検証
  25. 大邑潤三\*: 1927年北丹後地震における熊野郡の被害とその発生要因
  26. 植村善博\*: 1927年北丹後地震における峰山町と網野町の復興計画
  27. 新谷勝行\*: 丹後震災記念館の建築とその意義
- 南海トラフの地震 (13:15 - 14:15) 座長: 松浦律子
28. 神田克久\*: 沈み込むフィリピン海プレートで発生したスラブ内の歴史地震の地震規模の評価
  29. 羽鳥徳太郎\*: 静岡県～三重県沿岸の津波累積エネルギー分布
  30. 内田篤貴\*・浦谷裕明・小川典芳・中川進一郎: 明応地震津波に関する東海地域での現地調査結果について
  31. 都司嘉宣\*: 『谷陵記』の記載、および寺社被害史料からみた宝永地震津波(1707)による高知県での浸水状況

VI 北海道・東北の地震 (14:30 - 15:30) 座長: 西山昭仁

32. 行谷佑一\*・矢田俊文: 享徳三年(1454年)に奥州を襲った津波
33. 都司嘉宣\*: 慶長16年(1611)三陸沖地震の発生メカニズムの考察
34. 中西一郎\*: 北海道と周辺の歴史地震史料: 安永八年(1780年)得撫(ウルップ)島沖地震
35. 白石睦弥\*: 八戸地域における歴史災害と支援の実態

15:45 - 17:00 歴史地震研究会総会

9月16日(日)

10:00 - 12:00 見学会 「横浜・関東大震災の痕跡をめぐる」

案内: NPO 法人 横浜シティガイド協会

見学コース: 震災遺構(ジェラルド 80 番屋敷) 震災慰霊碑 震災復興で誕生した山下公園 震災を生き延びた露亜銀行跡 横浜都市発展記念館

13:30 16:30 公開講演会 「神奈川の関東大震災 地震学と歴史学の視点から」

司会: 北原糸子(立命館大学)

- 13:30 13:40 開会の辞  
 13:40 14:10 武村雅之(名古屋大学): 関東大震災と神奈川  
 14:10 14:40 大西比呂志(フェリス女学院大学): 女学生のみた関東大震災  
 14:50 15:20 寺寄弘康(神奈川県立歴史博物館): 浦賀町の震災対応  
 15:20 15:50 松浦律子(公益財団法人地震予知総合研究振興会): 神奈川県の津波想定について  
 16:00 16:30 質疑応答

## 第 29 回歴史地震研究会 総会議事録

日時: 2012 年 9 月 15 日(土) 15:45 ~ 17:00

場所: 横浜開港資料館講堂

1. 定足数確認 参加者 35 名 会員 251 名の 10%を越えるので総会成立を宣言(松浦副会長)
2. 武村会長挨拶 忌憚のない言葉を求めます
3. 議長選出 立候補者なし. 副会長より北原会員を議長に推薦. 北原会員が選出される.
4. 北原議長挨拶
5. 対外的活動の報告(松浦副会長)
  - (1) 前年度に引き続き, 2011 年 3 月 11 日東北地方太平洋沖地震に関連して過去の歴史地震津波に関する研究について関係会員が社会に向けて情報を発信した.
  - (2) 日本歴史災害事典の執筆に歴史地震研究会会員が協力, 2012 年 6 月に刊行.
  - (3) 内閣府 元禄地震の災害教訓の調査(伊藤, 北原, 都司, 宍倉, 武村, 今村隆正: 実施中)
  - (4) 消防庁消防博物館 関東大震災関連展示を監修(武村, 北原: 実施中)
  - (5) 日本被害地震被害総覧改訂(宇佐美, 松浦, 今村, 石井, 武村: 実施中)
6. 総務委員会報告(小松原総務幹事)
 

今年度は 5 回の幹事会を開催し, 会運営方針を議論したほか, 諸種の手続きを行った. 幹事会の主な議題は以下の通り. なお今年度から監査役にも幹事会への出席と発言を求めている.

  - ・第 29 回・30 回大会の方針(当年度行事委員会および全員)
  - ・会誌「歴史地震」の編集(編集幹事)
  - ・『歴史地震』掲載の記事について, 著者による電子ファイルのウェブ公開を許可するか否かに関して議論した(全員)
  - ・会計状況と行事等予算の確認, 入退会申請の承認(財政委員会)
  - ・会費長期滞納者への対応(財政委員会)
  - ・広報活動(広報委員会)
  - ・会則の改定案について議論した.
7. 行事委員会報告(吉田行事幹事)
 

以下の概要で, 第 29 回歴史地震研究発表会・シンポジウムならびに巡検の開催準備を行った.

主催: 歴史地震研究会  
 共催: 横浜開港資料館 / 横浜都市発展記念館

後援：首都圏形成史研究会 / 日本地震学会 / 横浜市総務局 / 横浜市中区

会場：横浜開港資料館 / 横浜都市発展記念館 / 横浜市開港記念会館

日程：2012年9月14(金)～16日(日)

(14日：研究発表会・懇親会 / 15日：研究発表会・総会 / 16日：巡検・公開講演会)

15日の時点で124名が参加,(うち会員79名,非会員45名)

#### 8. 編集委員会報告(金田編集幹事)

7月末日に歴史地震27号を発行した。論説4編,講演要旨35編,報告・紹介3編,研究会記事そのほかを掲載し,126頁,口絵2頁,目次3頁である。

無償配布先として新たに,史学会・歴史学研究会・地方史研究協議会・日本史研究会・日本歴史学会の5団体を追加した。

幹事会において,著者による記事のウェブ公開について議論し,本会ウェブページで公開されるPDFに限り,個人ホームページや所属機関リポジトリサイトなどでの公開を認める方針を決定した(高解像度PDFや冊子版記事をスキャンした電子ファイルの公開は認めない)。また,この方針に従って編集規定の一部改定を行った(7/30幹事会承認,8/8改定)。

新発見史料は「資料」として寄稿してもらうことに決定した。

#### 9. 広報委員会報告(林広報幹事)

広報委員会ではメーリングリスト musha および学会ホームページを通じた迅速な情報提供を進めた。大会への発表募集の案内や,公開シンポジウムについての告知については日本地震学会ニュースレター・日本第四紀学会ニュースレターにも掲載し広く周知した。

mushaの規定を修正した。修正内容は以下の通り。

1-1.主催者を運営および座長に変更。

4.メールの配信,「ただし,,,」以下はあまり意味がないので削除。

6.メンバー登録 連絡先を「座長」に変更。

なお座長の連絡先 musha-contact アットマーク maecha.net を用意し,現在は林広報幹事に転送するようになっている。

6-1.登録更新 管理が煩雑となっているので削除

7.メンバーリストの公開 削除

9.変更 規約の変更権限は歴史地震研究会・幹事会がもつことに変更。これまでは合議。

10.スポンサー 好意ではなく歴史地震研究会の正式運営となったので削除。

#### 10. 2011-12年度決算報告(諸井財政幹事)

2011-12年度の決算は表1のとおり。収入はほぼ予算どおりだが,支出は新潟大会で行事委員会の尽力の結果黒字が出たので予想を下回った。

議長：決算報告について質問は?

植竹：新潟大会で出た黒字によって予算より支出が軽減できたという説明はおかしいと思われないか?この点を補足として何かかいておいたほうが良いのではないか。新潟大会の黒字は本来収入として計上したほうが良いと思う。

諸井：内訳として収入になった旨を記載する。マイナスの補填は会にとって収入となるので,その旨を記載するのはどうか。HPに修正したものを今年度の決算として公開する。

議長：現在の形で承認されるか?

会場：拍手

議長：では承認されたとみなします。次に監査報告をお願いします。

## 歴史地震研究会 2011-2012年度 決算報告

|    | 項目                    | 予算額       | 決算額       | 増減     | 内訳         |
|----|-----------------------|-----------|-----------|--------|------------|
| 収入 | 2011-2012年度会費         | 690,000   | 606,000   | 84,000 | 202名×3000円 |
|    | 2011-2012年度以前会費(未払い者) | 0         | 24,000    | 24,000 | 8名×3000円   |
|    | 会誌バックナンバー売り上げ         | 0         | 8,500     | 8,500  | 会誌3, 予稿集2  |
|    | 会誌口絵代                 | 0         | 44,000    | 44,000 | 22000×2ページ |
|    | 銀行利息                  | 0         | 30        | 30     | 15×2       |
|    | 前年度繰越                 | 1,222,528 | 1,222,528 | 0      |            |
|    | 合計                    | 1,912,528 | 1,905,058 | 7,470  |            |

|    |                 |         |         |         |              |
|----|-----------------|---------|---------|---------|--------------|
| 支出 | 新潟大会補填          | 100,000 | 41,058  | 141,058 |              |
|    | 横浜大会準備費         | 10,000  | 150,100 | 140,100 | 大会運営費仮払い     |
|    | 歴史地震27号印刷代      | 472,500 | 403,231 | 69,269  | 470部,送料・振込料込 |
|    | 同編集費            | 0       | 5,210   | 5,210   | 査読料×1,振込料込   |
|    | HP管理費           | 12,000  | 12,210  | 210     | 振込料210円込     |
|    | 会議費             | 100,000 | 76,630  | 23,370  |              |
|    | 雑費(通信費・文房具購入など) | 60,000  | 9,252   | 50,748  |              |
|    | 未収入金            | 0       | 44,000  | 44,000  | 会誌口絵代        |
|    | 合計              | 754,500 | 659,575 | 94,925  |              |

|        |           |           |        |
|--------|-----------|-----------|--------|
| 次年度繰越金 | 1,158,028 | 1,245,483 | 87,455 |
|--------|-----------|-----------|--------|

### 2011年新潟大会 収支

|    | 項目          | 金額      | 内訳        |
|----|-------------|---------|-----------|
| 収入 | 参加費(会員)     | 75,000  | 1000円×75名 |
|    | 参加費(非会員)    | 74,000  | 2000円×37名 |
|    | 懇親会会費(一般)   | 255,000 | 5000円×51名 |
|    | 懇親会会費(学生)   | 9,000   | 3000円×3名  |
|    | 巡検参加費       | 222,000 | 6000円×37名 |
|    | 予稿集代        | 1,000   | 1000円×1部  |
|    | 歴史地震研究会より補填 | 41,058  |           |
|    | 合計          | 594,942 |           |

|    |        |         |                        |
|----|--------|---------|------------------------|
| 支出 | 予稿集印刷代 | 46,515  | 80部,消費税・振込料420円込       |
|    | 予稿集増刷代 | 42,105  | 50部,消費税・振込料420円込       |
|    | 懇親会代金  | 252,500 | 参加人数43名,消費税込           |
|    | 巡検代金   | 211,182 | バス代・昼食代ほか,消費税・振込料420円込 |
|    | アルバイト代 | 32,000  | 8000円×2日×2名            |
|    | コピー代   | 10,000  | 予稿集不足分のコピー             |
|    | 宅配便代   | 640     |                        |
|    | 合計     | 594,942 |                        |

## 11. 監査報告

永井監査役：収入・支出・預金残高ともに正しく記載されていることを確認した。新潟大会分の収入については承知していた。一方収入欄で会誌口絵代が入金前なのに収入にいれてあるのは会計報告としておかしいと感じた。

中村監査役：会費収入が250名中180名分しか入っていない。ここ数年間で32万円ほど収入が足りないのは大きな問題と感じる。

武村：決算についてはここで認めてもらいたい。未納の人には連絡して請求している。各人がいくらか分未納が分からないので、できるだけ早く未納者に連絡をとって払ってもらおうようにしている。

中村監査役：諸井さんだけでは未納金対応は大変なので、手分けして督促する。

議長：決算報告は承認されるか？

会場：拍手

議長：では2011-12年度の決算は承認されたと認めます。次に次期会長を選出します。

## 12. 次期役員人事

松浦：武村現会長を推薦します。

北原：皆さんどうでしょうか？

会場：拍手

議長：それでは武村会長に来年度もお願いすることになりました。ついで監査役の選出をお願いします。

松浦：永井さんと中村操さんを推薦したい

議長：皆さん、いかがでしょうか？

会場：拍手

議長：承認されたので宜しくお願ひいたします。

武村会長挨拶：微力ながら一生懸命やらせていただきます。各幹事を指名します。副会長は松浦さん、総務幹事は小松原さん、財政幹事は諸井さん、編集幹事は金田さん、広報幹事は林さんに代わって石辺さん、行事幹事は林信太郎さんをお願いします。

各幹事挨拶

議長：幹事会に対して要望はないでしょうか？

議長：ないようですので、私から提案したいことがあります。新しい歴史地震関係の本を紹介する書評・紹介といったコーナーを作って欲しいと思います。ご検討をお願いします。

## 13. 2011-2012年入退会者の報告(諸井財政幹事)

新規入会22名、3名退会(うち2名逝去)で、現在会員数は251名となっています。

## 2011-2012年度 入退会者

2011年9月1日時点の会員数:232名

2012年9月1日時点の会員数:251名

新規入会者:22名

|      |            |      |
|------|------------|------|
| 足立長門 | 竹村孝弘       | 柳澤和明 |
| 水田敏彦 | 齋藤剛彦       | 聖城雅夫 |
| 越後智雄 | 三神厚        | 新田康二 |
| 上田誠  | 高野宏康       | 相原淳一 |
| 野越三雄 | 新谷勝行       | 萬年一剛 |
| 長内洋介 | 宇野宏司       | 山中佳子 |
| 千葉崇  | 都築充雄       | 蝦名裕一 |
| 谷本光生 | (敬称略, 入会順) |      |

退会者:3名

|            |      |            |
|------------|------|------------|
| 山下文男       | 宮地直道 | 砂防エンジニアリング |
| (敬称略, 退会順) |      |            |

### 14. 2012-13 年度予算案説明(諸井財政幹事)

昨年度と同様に非会員に査読を依頼する際の費用として編集費に 10000 円を計上しています。

### 歴史地震研究会 2012-2013年度 予算案

|               | 項目              | 予算額              | 内訳                                  |
|---------------|-----------------|------------------|-------------------------------------|
| 収入            | 会費              | 750,000          | 250名 × 3000円                        |
|               | 前年度繰越           | 1,245,483        |                                     |
|               | 合計              | 1,995,483        |                                     |
| 支出            | 会誌印刷費(歴史地震27号)  | 493,500          | (1050円 × 470部),送料込み<br>査読料5000円 × 2 |
|               | 同編集費            | 10,000           |                                     |
|               | HP管理費           | 12,000           |                                     |
|               | 雑費(通信費・文房具購入など) | 60,000           |                                     |
|               | 会議費             | 200,000          |                                     |
|               | 横浜大会補填          | 0                |                                     |
|               | 次回大会準備費         | 200,000          |                                     |
|               | 合計              | 975,500          |                                     |
| <b>次年度繰越金</b> |                 | <b>1,019,983</b> |                                     |

議長：予算案にご意見は？

議長：意見がなさそうなので、拍手でもって承認いただけるでしょうか

会場：拍手

議長：予算案を承認いたしました。

引き続き武村会長からお願いがあります。



## 15. 会則改定

武村：はじめに功績賞の設置を提案します。趣旨は以下の通りです。

歴史地震研究会も設立以来、来年で 30 周年を迎える。その間、研究会にあって歴史地震研究の発展ならびに本会の発展に対して寄与された方々も多く、その中でも顕著な攻積を挙げられた会員を表彰し永く記録にとどめ、よって未来に向けての範となすべく功績賞を設置したい。

ご賛同いただける場合の手続き

会則の改正（総会での決議事項）

功績賞の表彰規定の制定（幹事会で定める事項）

### 会則改正

第 3 条 本会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

- (1) 研究成果発表会および講演会
- (2) 会誌の刊行
- (3) 広報活動
- (4) 歴史地震研究に関する業績の表彰
- (5) その他、必要な事業

### 規定の制定

歴史地震研究会功績賞内規

平成 24 年 9 月 4 日幹事会承認

第 1 条 本規定は、歴史地震研究会会則第 3 条(4)項に規定する業績の表彰に基づき、歴史地震研究の進歩・発展ならびに本会の発展に対して顕著な功績を挙げられた方に贈る「歴史地震研究会功績賞」に関して定める。

第 2 条 本賞の対象は、本会会員とする。なお、本賞の既受賞者は対象から除く。

第 3 条 対象業績は歴史地震研究の進歩・発展、歴史地震研究会の発展に対するものとする。

第 4 条 授賞式は、会員総会の場において行い、受賞者に賞状を贈る。

第 5 条 功績賞選考委員会が受賞者の選考を行い、幹事会が決定する。功績賞選考委員会は、正・副会長、総務幹事、財政幹事から構成する。

附則； 1. この内規は、幹事会で変更することができる。

2. この内規は、平成 24 年 9 月 15 日より施行する。

補足説明いたします。名誉会員という制度を作れないかという意見をもらいました。しかし名誉会員となってしまうと却って本人が発表しにくくなる雰囲気生まれる恐れがあります。そこで、名誉会員制度はとらずに功績賞という形にすることにしました。この件についてご議論お願いします。

議長：功績賞の設置と会則改正に関して意見はありませんか？

植竹：9月4日幹事会承認の内規の日程はおかしいのでは？

武村：内規の日程を変えることには全然やぶさかではないので、9月4日幹事会承認を9月15日幹事会承認に改めます。

議長：以上の訂正を加えて承認いただけるでしょうか？

会場：拍手

議長：ではこの件に関して会則改正は成立しました。次の会則改正の件について説明をお願いします。

武村：金融機関の事務所所在地に関するチェックが厳しくなっています。また地震研究所にも迷

惑をかけているので、松浦さんが所属する地震予知総合研究振興会に事務所をおくようにしたい。地震研究所にも了解をいただいている。このことを下記資料のように会則に明記したいと思います。

郵便振替口座など金融機関の住所管理の厳格化に沿うために、会則の事務所所在地を以下のように変更することを提案する。

(事務所)

第4条 本会は、事務所を東京都文京区弥生1-1-1東京大学地震研究所内に置く。

東京都千代田区猿楽町 1-5-18 千代田ビル 公益財団法人 地震予知総合研究振興会内

議長：実質に一致させたいという趣旨だが、承認いただけるでしょうか？

会場：拍手

議長：では承認されました。

#### 16. 2013年大会について

議長：行事委員から来年の大会について説明をお願いします。

林：2012年9月14～16日に秋田で開催します。1日目と2日目の前半は研究発表会、2日目の午後は公開講演会、3日目は秋田県北部から青森県の西津軽を訪ねる巡検を計画しています。すでに会場として秋田大学の教室を確保しています。

#### 17. そのほか

議長：他に何かないでしょうか？

津村：歴史天候を調べている人とコンタクトをとったところ、歴史天候と歴史地震を合同で研究すると有効ではないかと感じました。「歴史天候データベース」を検索すると、全国の年月日の天候が分かる。これを利用して地震発生日をある程度決められることができると思います。逆に歴史天候の研究者は歴史地震研究史料のなかに歴史天候が記されていることを知らない。30箇所くらい、藩史料を中心として、天候を網羅している。歴史天候の研究者は海外の研究者との交流が盛んであり、コンタクトをとりながら研究すると歴史地震研究にもメリットがある。天候研究者は幕末明治初期の歴史資料を集める非常に有力な史料としてこの英文史料を使っているが、宇佐美先生は英文史料を使っていない。

北原：歴史天候の研究会はあるのでしょうか？

津村：ない。ほんの数人でやっている状況です。とりあえず、データベースをみて欲しい。

議長：これにて総会の議題はすべて話し終えました。総会を終了したいと思います。

松浦：ありがとうございました。

### 2011-12年度決算報告の修正版

第29回総会での議論を受け、2011-12年度決算報告および2011年新潟大会収支を次のように修正する。

決算報告のうち、支出の部の『新潟大会補填』41,058円を0とし、これを収入の部に『新潟大会剰余金』41,058円として計上する。

同、収入の部の『会誌口絵代』44,000円を0として内訳欄に「未収入金」と記載し、これに対応する支出の部の『未収入金』44,000円の項目を削除する。

上記2項により決算額は、収入の部 1,905,058 円から 1,902,116 円に、支出の部 659,575 円から 656,633 円に、それぞれ修正される。ただし次年度繰越金 1,245,483 円は変更無し。

決算報告との整合性を図るため、新潟大会収支のうち収入の部の『歴史地震研究会より補填』41,058 円を削除し、収支差額を 41,058 円（剰余金）として計上する。

2011-12 年度決算報告および 2011 年新潟大会収支の修正版を以下に示す。

### 歴史地震研究会 2011-2012年度 決算報告

|    | 項目                    | 予算額       | 決算額       | 増減     | 内訳         |
|----|-----------------------|-----------|-----------|--------|------------|
| 収入 | 2011-2012年度会費         | 690,000   | 606,000   | 84,000 | 202名×3000円 |
|    | 2011-2012年度以前会費(未払い者) | 0         | 24,000    | 24,000 | 8名×3000円   |
|    | 会誌バックナンバー売り上げ         | 0         | 8,500     | 8,500  | 会誌3, 予稿集2  |
|    | 会誌口絵代                 | 0         | 0         | 0      | 未収入金44000円 |
|    | 銀行利息                  | 0         | 30        | 30     | 15×2       |
|    | 新潟大会剰余金               | 0         | 41,058    | 41,058 |            |
|    | 前年度繰越                 | 1,222,528 | 1,222,528 | 0      |            |
|    | 合計                    | 1,912,528 | 1,902,116 | 10,412 |            |

|    |                 |         |         |         |              |
|----|-----------------|---------|---------|---------|--------------|
| 支出 | 新潟大会補填          | 100,000 | 0       | 100,000 | 剰余金のみ        |
|    | 横浜大会準備費         | 10,000  | 150,100 | 140,100 | 大会運営費仮払い     |
|    | 歴史地震27号印刷代      | 472,500 | 403,231 | 69,269  | 470部,送料・振込料込 |
|    | 同編集費            | 0       | 5,210   | 5,210   | 査読料×1,振込料込   |
|    | HP管理費           | 12,000  | 12,210  | 210     | 振込料210円込     |
|    | 会議費             | 100,000 | 76,630  | 23,370  |              |
|    | 雑費(通信費・文房具購入など) | 60,000  | 9,252   | 50,748  |              |
|    | 合計              | 754,500 | 656,633 | 97,867  |              |

|        |           |           |        |
|--------|-----------|-----------|--------|
| 次年度繰越金 | 1,158,028 | 1,245,483 | 87,455 |
|--------|-----------|-----------|--------|

### 2011年新潟大会 収支

|    | 項目        | 金額      | 内訳        |
|----|-----------|---------|-----------|
| 収入 | 参加費(会員)   | 75,000  | 1000円×75名 |
|    | 参加費(非会員)  | 74,000  | 2000円×37名 |
|    | 懇親会会費(一般) | 255,000 | 5000円×51名 |
|    | 懇親会会費(学生) | 9,000   | 3000円×3名  |
|    | 巡検参加費     | 222,000 | 6000円×37名 |
|    | 予稿集代      | 1,000   | 1000円×1部  |
|    | 合計        | 636,000 |           |

|    |        |         |                        |
|----|--------|---------|------------------------|
| 支出 | 予稿集印刷代 | 46,515  | 80部,消費税・振込料420円込       |
|    | 予稿集増刷代 | 42,105  | 50部,消費税・振込料420円込       |
|    | 懇親会代金  | 252,500 | 参加人数43名,消費税込           |
|    | 巡検代金   | 211,182 | バス代・昼食代ほか,消費税・振込料420円込 |
|    | アルバイト代 | 32,000  | 8000円×2日×2名            |
|    | コピー代   | 10,000  | 予稿集不足分のコピー             |
|    | 宅配便代   | 640     |                        |
|    | 合計     | 594,942 |                        |

|      |        |     |
|------|--------|-----|
| 収支差額 | 41,058 | 剰余金 |
|------|--------|-----|

### 3. 幹事会議事録

#### 2011 年度第 4 回歴史地震研究会幹事会 議事録

日時：2012 年 7 月 30 日(金)

場所：地震予知総合研究振興会会議室

出席者：武村・松浦・金田・諸井・吉田・永井・小松原

##### 1. 横浜大会進捗状況

- ・開催形式：地震学会の後援は林広報幹事から直接地震学会に依頼する。
- ・大会収支：大会関連経費の管理は行事委員会で責任をもつ。
- ・行事終了報告：共催・後援団体への行事終了報告は総務幹事から出す。
- ・報道機関対応：朝日新聞横浜総局・神奈川新聞・テレビ神奈川・NHK 横浜支局には好印象で迎えられている。他の報道機関との対応は幹事各位に協力をお願いする。また、報道機関の研究発表会参加者からも研究発表会参加費を徴収する。
- ・会場使用料：開港資料館使用料は後払い(参加者数に応じて)、開港記念会館代は行事幹事による立替払い済み
- ・要旨集印刷：印刷社決定済み、原稿が集まりつつある状況
- ・非会員の巡検参加希望者への対応：巡検参加費と大会参加費(合計 3000 円)を当日納入すれば事前予約済みの非会員も参加可能。
- ・領収証の作成：総務幹事が各人の名前を書き込んだ領収証を作成する。
- ・参加者名札の作成：副会長が地紋入りの名札用紙を作成する。
- ・懇親会：横浜開港資料館館長を来賓として招待する。懇親会の式次第を決定、閉会挨拶は北原元会長に依頼、懇親会を立食形式にできるか否か確認すること。
- ・懇親会参加者等募集情報：musha で懇親会勧誘情報を流すこと
- ・参加費は右の通り：参加費 1000 円(非会員 2000 円)、巡検 1000 円、懇親会 5000 円(学生 3000 円)

##### 2. 編集関係

###### 2-1. 機関リポジトリ対応

- ・機関リポジトリ対応について金田編集幹事提案の 2 つの案を軸に議論した。
  - 案 1：研究会ホームページにリンクを張ってもらう(リポジトリ公開を認めないという扱いとなる)
  - 案 2：高解像度 PDF や電子版記事をスキャンした電子ファイルの公開は認めないとした上で記事の電子ファイル公開を認める
- 参加幹事の全員一致で案 2 を承認。これに伴って編集規程を修正、総会で報告することに。

###### 2-2. 27 号の出版

- ・31 日までに発送完了見込み。470 部印刷。余部は小松原宛に送ること。印刷・郵送費は 40 万 905 円から若干変更の可能性あり。
- ・論説 4、講演要旨 35、報告 3、研究会記事 2 で、132 ページ。
- ・次号原稿募集の HP 掲載を林広報幹事をお願いすること。
- ・歴史系学会の無償配布先について：金田編集幹事から吉田行事幹事に無償配布先のリストを送り、追加配布先がないか確認すること。

##### 3. 功績賞の設置について

- ・歴史地震研究会功績賞の設置について武村会長の案を軸に議論した。
- ・歴史地震研究の進展、歴史地震研究会の発展に寄与した人に功績賞を授与することに参加監事の全員賛成。
- ・功績賞の内規については次回幹事会で継続審議。

- ・研究会会則の第 3 条(4)に歴史地震研究に関する業績の表彰, を加える案が武村会長より提案される. 総会に諮ることに.
- 4. 研究会事務所の所在地
  - ・本会の事務所を従来の東京大学地震研究所から, 公益財団法人 地震予知総合研究振興会に変更する議案を武村会長が提案. 総会に諮ることに.
- 5. 総会対応
  - ・次回幹事会までに各幹事は委員会報告を小松原総務幹事に提出すること. 総会の時間は 15:45 ~ 17:00.
- 6. 永井監査役からの研究会活動に対する提言
  - ・3.11 以降世の中の歴史地震学に対する要求が変わってきている。史料の掘り起こし, 読み解きなど社会の要求に答える小イベントを年に 1 回企画できないだろうか。
    - 参加幹事で議論. 歴史地震研究会が主体として企画を実行するのは年に 1 度が限界。できればよいのだが, 研究会では難しい。博物館の展示などに歴史地震研究会の名前を使ってもらうのが限界ではないか。できるだけチャンスをつかんで普及活動に取り組んでいきたい. などの意見がでた.
- 7. 入退会者報告
  - ・今期は入退会申請なし
- 8. 次回幹事会
  - 9 月 4 日(火曜)17:30 ~ 地震予知総合研究振興会  
新行事委員に参加をお願いする。

## **2012 年度第 1 回歴史地震研究会幹事会 議事録**

日時: 2011 年 10 月 9 日(火)17:00 ~ 19:00

場所: 地震予知総合研究振興会会議室

出席者: 武村, 松浦, 吉田, 林, 諸井, 石辺, 小松原, 中村, 永井

### 1. 第 29 回歴史地震研究会の完了報告

・参加者:

研究発表会: 会員 75 名, 非会員 50 名(合計 125 名)

懇親会: 55 名

巡検: 31 名

公開講演会: 167 名

マスコミ研究発表会 7 社 10 名, 公開講演会 2 社 2 名

報道: 4 件

・収支: ほぼ均衡している.

・総括: 問い合わせの割にはマスコミの人が来なかった(広報の仕方に問題があったか?). 開催地と関連する学会との協力関係を築くことができた. これは大きな収穫といえる.

・関連事業への協力: 地震学会が 2013 年 10 月 6 日に市民向け講演会を開催するが, その時期に開港資料館が震災関連の展示を行うので協力関係を作れないか. 馬場旧行事委員が地震学会の講演会担当なので協力が可能.

・その他: 印刷費の請求書が届き次第, 財政幹事に請求書を送ること.

保険費は開港資料館の松本さんが立て替えてくれている. 領収証を諸井財政幹事に送って支払うこと.

横浜市ふるさと歴史財団が企画している関東大震災 90 周年記念・公開講演会について, 歴史地震研究会の共催名義使用許可を承認.

### 2. 入退会申請

・浦谷さん, 梶原さん, 永治さん, 小川さん, 釜田さん, 天野さん, 藤井さん, 岸田さんの 8 名入会申請. 全員承認.

### 3. 無償配布先について

最近会誌の無償配布を求める機関が増えている。現在では会員数と同じくらいの部数を無償配布しているが、このまま無償配布機関が増え続けると対応が困難となる。無償配布先は公共的で多くの人が閲覧できることに限定する。野放図にプライベートな場所に配り続けることはしない。万一財政的に逼迫してきた場合には、アンケートを出して配布先を絞り込む可能性がある。

### 4. musha の規約に削除とのみ書いた項目がある件について

削除とのみ書いてある項目は削除する方向で松浦副会長が新規約案を作り、幹事にまわす。

### 5. 2011~2012 年度の決算に関連して

#### 5-1. 会費未納者対応

- ・会費滞納状況のリストを作り、滞納者に督促状を出す。
- ・総会議事録をまとめて督促状とともに会員に送付する。
- ・未納金の納付期限を設定する。

#### 5-2. 総会議事録について

- ・収入欄の会誌口絵代の記載は削除する。
- ・新潟大会補填を支出の中に入れてと理解しにくいので、剰余金として記載する。
- ・総会議事録は総会での意見をを受けて表現を修正するが、残額は変わらないので改めて総会は再度開かない。
- ・決算状況について会計士に相談した。謝礼として菓子折りを持参することになった。

#### 5-3 HP 公開について

- ・新規約と規定を武村さんから、新編集規定を松浦さんから、石辺さんに送って HP を作る。

### 6. 次回の幹事会

- ・功績賞について議論する。受賞者には旅費などを出す。表彰状のために印鑑を作る必要があるか否か検討する。
- ・次回の日程：林行事幹事の都合を優先して決める。12月の上旬～中旬(10日の週が良い)を軸として小松原が調整する。

## **2012 年度第 2 回歴史地震研究会幹事会 議事録**

日時： 2012 年 12 月 10 日(月)17:00~19:30

場所： 地震予知総合研究振興会会議室

出席者： 武村，松浦，林，諸井，石辺，小松原，永井，中村，金田

### 1. 総会の決算報告について

変更点を示したメモを作成し総会議事録と共に全会員に郵送する。

変更点に関する記載は財政幹事が作成し、最終的には年内に副会長から会員に郵送する。

改正版の決算報告は以下の通りである。

## 歴史地震研究会 2011-2012年度 決算報告

|    | 項目                    | 予算額       | 決算額       | 増減     | 内訳         |
|----|-----------------------|-----------|-----------|--------|------------|
| 収入 | 2011-2012年度会費         | 690,000   | 606,000   | 84,000 | 202名×3000円 |
|    | 2011-2012年度以前会費(未払い者) | 0         | 24,000    | 24,000 | 8名×3000円   |
|    | 会誌バックナンバー売り上げ         | 0         | 8,500     | 8,500  | 会誌3, 予稿集2  |
|    | 会誌口絵代                 | 0         | 0         | 0      | 未収入金44000円 |
|    | 銀行利息                  | 0         | 30        | 30     | 15×2       |
|    | 新潟大会剰余金               | 0         | 41,058    | 41,058 |            |
|    | 前年度繰越                 | 1,222,528 | 1,222,528 | 0      |            |
|    | 合計                    | 1,912,528 | 1,902,116 | 10,412 |            |

|    |                 |         |         |         |               |
|----|-----------------|---------|---------|---------|---------------|
| 支出 | 新潟大会補填          | 100,000 | 0       | 100,000 | 剰余金のみ         |
|    | 横浜大会準備費         | 10,000  | 150,100 | 140,100 | 大会運営費仮払い      |
|    | 歴史地震27号印刷代      | 472,500 | 403,231 | 69,269  | 470部, 送料・振込料込 |
|    | 同編集費            | 0       | 5,210   | 5,210   | 査読料×1, 振込料込   |
|    | HP管理費           | 12,000  | 12,210  | 210     | 振込料210円込      |
|    | 会議費             | 100,000 | 76,630  | 23,370  |               |
|    | 雑費(通信費・文房具購入など) | 60,000  | 9,252   | 50,748  |               |
|    | 合計              | 754,500 | 656,633 | 97,867  |               |

|        |           |           |        |
|--------|-----------|-----------|--------|
| 次年度繰越金 | 1,158,028 | 1,245,483 | 87,455 |
|--------|-----------|-----------|--------|

### 2011年新潟大会 収支

|    | 項目        | 金額      | 内訳        |
|----|-----------|---------|-----------|
| 収入 | 参加費(会員)   | 75,000  | 1000円×75名 |
|    | 参加費(非会員)  | 74,000  | 2000円×37名 |
|    | 懇親会会費(一般) | 255,000 | 5000円×51名 |
|    | 懇親会会費(学生) | 9,000   | 3000円×3名  |
|    | 巡検参加費     | 222,000 | 6000円×37名 |
|    | 予稿集代      | 1,000   | 1000円×1部  |
|    | 合計        | 636,000 |           |

|    |        |         |                         |
|----|--------|---------|-------------------------|
| 支出 | 予稿集印刷代 | 46,515  | 80部, 消費税・振込料420円込       |
|    | 予稿集増刷代 | 42,105  | 50部, 消費税・振込料420円込       |
|    | 懇親会代金  | 252,500 | 参加人数43名, 消費税込           |
|    | 巡検代金   | 211,182 | バス代・昼食代ほか, 消費税・振込料420円込 |
|    | アルバイト代 | 32,000  | 8000円×2日×2名             |
|    | コピー代   | 10,000  | 予稿集不足分のコピー              |
|    | 宅配便代   | 640     |                         |
|    | 合計     | 594,942 |                         |

|      |        |     |
|------|--------|-----|
| 収支差額 | 41,058 | 剰余金 |
|------|--------|-----|

#### 2. 新入会員

保立さん, 奥野さんの2名が入会申請. 2人の入会を承認. 会員数は261名に.

#### 3. 会費滞納者対応

27号分未納者を含めて会費未納者全員に督促状を出す. 文面は会長が作成する. 内容は, 会の会計年度は9月に始まり8月末日で終了している. 年度当初にその年度分の会費を納めることになっ

ている。2013年1月までに払い込まない人には28号を送付しない。多年にわたって不払いを続けている人は幹事会の議決を経て除名することもある。払い込み先はゆうちょ銀行とする, などである。

#### 4. 秋田大会準備状況

教室の借用はすでに許可を得ている。借用料の支払いは大会終了後で可。

公開講座の講師の中に歴史系の方がほしい。武村会長の代わりに水田会員にお願いしてはどうか, 北原会員に相談してみてもどうか, 白石会員はどうか, などの意見がでた。

総会は9月14日、懇親会は15日に行う予定。

巡検日程・見学地はほぼ確定している。

懇親会の場所は未定

#### 5. 功績賞について

受賞者には会場までの交通費と宿泊費1泊分を出し、懇親会に招待する。表彰状を作成する。

#### 6. 後援名義使用

第3回震災予防講演会の講演会「関東大震災と富士山噴火」に歴史地震研究会が後援として名前を連ねる。

#### 7. 歴史地震第1号～第17号のPDF化について

G4のTIFF(目次ファイルあり)からPDFを起こせば可か?見積もってみる。

公開には著者の承認が必要。

次年度の検討課題とする。

#### 8. 編集関係

日本語論文を英訳した論文を掲載するかどうか議論した。単なる英訳ならば二重投稿とみなされるので、掲載できないことに。

#### 9. 次回幹事会の日程

2013年2月7日(木) 17時から地震予知総合研究振興会会議室にて行う。

## **2012年度第3回歴史地震研究会幹事会 議事録**

日時: 2月7日(木) 17:00~18:40

場所: 地震予知総合研究振興会会議室

出席者: 武村・林・金田・石辺・諸井・小松原・永井・中村

### 1. 編集委員会報告

- ・投稿14編と好調, 順調にゆけば, 投稿論文部分のページ数は昨年度の2~3倍程度となる。
- ・非会員査読1名に5000円謝金を支払う。
- ・横浜大会一般講演会要旨: 寺寄さんについては会長から執筆を催促する。
- ・この投稿数が続くようであれば, 編集委員の増員を検討したい。
- ・歴史地震27号のWeb公開はPDF原稿を編集幹事から広報幹事にロックをかけたものを宅ファイル便で送る。

### 2. 会費滞納者からの収納状況

- ・督促状を送付, 過払い・納金不足・連絡不能の問題がある。
- ・約6割の納入率, 多数年度不払いの人でそのまま不払いの事例が多い。
- ・納入状況をまとめた上で, 対応を考える。整理を諸井さんにお願いする。
- ・催促状とともにメールを広報幹事が流したところ何人かの人からレスポンスあり。
- ・会費の納入時期: 次回以降は毎年10月末までにその年度の会費を支払うこととする(大会の際に周知する)。



- ・新入会者には今年度の会誌を受け取ることができる。
3. musha の規約改正
    - ・広報幹事から musha の規約改正の動議が出された。基本的には文章表現に関する問題であり，幹事会で承認。
  4. 入退会者報告
    - ・藤原さん，本吉さん，駒木野さん，川添さんの4名が入会申請。全員承認。
  5. 横浜大会収支明細報告
    - ・大会準備金（15万円）とほぼ同額が収入となった。
    - ・次年度以降，仮払いは前年度決算に入れるようにする。そのほうが分かりやすい。
  6. 秋田大会広報資料
    - ・資料は行事委員会によってほぼ完成に至った。以下の点で若干の修正・補足を加え早期に歴史地震研究会ホームページに掲載すると共に5月の地震学会ニュースレターに寄稿する。
    - ・行事委員会のメールアドレスを作成する。
    - ・領収証用紙は財政幹事から行事幹事に送る。それに行事委員会で印鑑を押せばよい。
    - ・公開講演会では津波や活断層の話を入れたい。
      - 仮題「歴史地震から秋田県の防災を考える：東日本大震災を踏まえて」
    - ・参加費：会員 1000 円，非会員 2000 円
    - ・発表者は会員のみと明記する。
    - ・研究会のお知らせは石辺さんに送る。
    - ・受付はアルバイト 2 名を依頼して行う。
    - ・歴史地震研究会ホームページには速やかに掲載する。
    - ・地震学会ニュースレターへの投稿は広報幹事が行う（4月10日締め切り）。
  7. 歴史地震バックナンバーのホームページ掲載に関して
    - ・TIFF ファイルから 2000 頁分を論文ごとに PDF 化，ホームページ掲載用に形式を整えると概算で 8 万 5 千円の外注費がかかる。より安価な手法はないか，副会長の来席の場で再度議論する。
    - ・今公開している PDF と同様に編集はできないが，印刷ができる程度のプロテクトをかける必要がある。その方針を維持するか。
    - ・古い論文では著作権の問題が残っているので，承諾を得てからホームページに掲載する。
  8. 功績賞表彰の件
    - ・功績賞受賞候補者にご快諾をいただいた(会長)。
    - ・往復交通費と 1 泊分の宿泊費は支給する。実費支給とし，懇親会に招待する。
    - ・表彰状を折とするか丸めとするか？など会長と総務幹事で印刷社に行って実物を見て決める。
  9. 入会申請書式について
    - ・混乱を生じさせないため，雑誌の送付先を入会申請時に明記するようにホームページの申請書様式に欄を設ける。
  10. 次期・次々期大会
    - ・次回(2014 年)は名古屋で開催したい。会場は名古屋大学減災研究センター（建設中）。東南海地震 70 周年にあたり重要。
    - ・次々回(2015 年)は京丹後市を希望する。
  11. 次回の幹事会
    - ・4月12日か26日の線で調整すること（総務幹事）。

## 2012 年度第 4 回歴史地震研究会幹事会 議事録

日時： 4 月 12 日（金）17：00～19：00

場所： 地震予知総合研究振興会会議室

出席者： 武村・松浦・林・諸井・金田・石辺・小松原

### 1. 秋田大会準備状況

#### ・ 公開講演会

公開講演会のタイトル（歴史地震から秋田県の防災を考える：東日本大震災を踏まえて）、演者（宍倉・小松原・水田・伊東）などが確定。講演時間は 1 人 30 分程度。謝礼なし。演者は A4 で 1 枚のレジメを作り、会場で参加者に配布する。会場の定員は 300 名、100~200 名の参加を見込む。司会は林行事幹事が担当する。

13：30 開演，16 時閉会とする。

秋田大学と歴史地震研究会の共催とする。

秋田大学の副学長に開会挨拶を依頼する。閉会挨拶は武村会長。

宣伝方法：ポスターを作って配布する。行事委員会で作成。紙代は研究会から支給。公民館・図書館に配布。

#### ・ 研究発表会

プログラムは 6 月 9 日までに行事委員会で作成。cmusha で幹事に連絡する。

地震予知総合研究振興会の大型プリンターで垂れ幕を打ち出して送る。

#### ・ 巡検

巡検は申込み先着順，バス 1 台分(50 名程度?)とする。

林行事幹事・白石委員が案内。

巡検案内書を作っている。

#### ・ 懇親会

立食・量は少なめ・50 人程度の会場を押さえる。功績賞受賞者をご招待。懇親会司会は水田先生に依頼。

### 2. 広報幹事報告

HP 管理・運営と議事録アップ，秋田大会第一報アップなどを行った

日本史関係の学会への連絡は吉田さんと連絡をとりあう。

インターネットが使えない人には松浦副会長が HP を印刷して送る。

### 3. 編集幹事報告

・ 14 編の投稿あり，3 編受理（ないし受理間近），6 月の幹事会時には仮見積もりを提示できる予定。

・ 寺寄氏からは連絡がないので，もう一度会長が催促の電話を掛ける。

・ 編集の追い込み段階でアルバイトが使えないか議論。体裁を整えるなどの仕事で 2 万円程度必要。振り込んで領収証を提出してもらえばよい。

### 4. 功績賞の賞状

・ 用紙は緑の模様なし，

・ 台紙は金箔押し，年を入れて毎年入れることに。

・ 台紙の色は No.46（ワイン）で。

・ 一式まとめて再度見積もりをお願いする。

・ 印影も作る

## 5. バックナンバーの PDF 化，公開

2,000p で 85,000 円ならば高くない。業者委託で PDF 化，HP 公開。

著作権について，個別に著者に当たるか musha などで公開の旨発表し，著作権を貰うことにする。

とりあえず公開を前提に著者のリストを作る。既に松浦副会長が作成しているリストを総務幹事が担当してまとめる。

## 6. 入退会承認

入会：藤田辰也

退会：杉本めぐみ

以上，承認された。

## 7. 「関東大震災 90 周年」シンポジウムについて

・ 8 月 27 日（火曜）に日本地震学会・地震工学会・歴史地震研究会が共催して江戸東京博物館ホールにて「関東大震災 90 周年」を開催する。

・ 午前中：慰霊堂案内（武村会長案内役）午後：シンポジウム（武村会長ほかの講演）

歴史地震研究会からお金を拠出することはない。

プログラム作成などは地震学会と地震工学会が担当している。

## 8. 次回幹事会 6 月 28 日 17:00～ 地震予知総合研究振興会会議室にて

### 2012 年度第 5 回歴史地震研究会幹事会 議事録

日時： 6 月 28 日（金）17：00～19:00

場所： 地震予知総合研究振興会会議室

出席者： 武村・松浦・林・諸井・金田・小松原・永井・中村

#### 1. 永井監査役からの提言

1) 会費未収納金の扱いについて予算・決算書に未入金分を書き込むことはできないか、議論してほしい。

・議論：予算・決算に未収納金を入れるというのは労力的に大変で、現行の体制では無理。

・最終的には、従来と同様の扱いとすることで決着。

2) 会誌の送付と年会費の請求・納付を別々に帳簿上記載して財政幹事の仕事を簡略化できないか、議論してほしい。

・議論：実際には 1 年に 1 度の会誌発行のため、今のやり方が最も労力を必要とせず、安価にできる方法と思う。財政幹事が変わっても、今の方法で十分に対応できる。1 年に 1 回で全部できるので、最も負担が少ないやりかたをしているので、変更しないほうが良い。

・最終的には現行のやり方を踏襲することで決着。

#### 2. 秋田大会準備状況

1) 申し込み状況：巡検 24、懇親会 21、昼食 14 の申し込みがきている。巡検参加者は保険のため、生年月日などの情報が必要。

2) 講演要旨は 1～2p にまとめるように会員に求めているが、できるなら会誌の印刷を考えて 1p に収めてほしい。既に要旨を書き込んでいる人は 2p でも受け付けるが、これから要旨を書く人には 1p でまとめることを希望する旨、行事幹事が musha で告知する。

3) 行き帰りの鉄道・飛行機の便について

- ・最近、飛行機の時刻が改正された。開催日の鉄道・飛行機の時刻を行事幹事が musha で告知する。
- 4) 会場設営について
    - ・ポスター会場の準備は前日に行う。可能な幹事は 13 日 16 時に会場に集合し準備を行う。
    - ・14 日は 7 時半に会場集合とする。
  - 5) ポスター展示について
    - ・ポスター会場として広い部屋を確保している。テープで張り付けるならば大きい紙で展示可能
  - 6) 公開講演会について
    - ・伊藤和明会員の講演時間は 40 分を見込む。
    - ・司会は林行事幹事が担当。
    - ・事前申し込みは不要。
    - ・公開講演会ではレジメを渡す。受付担当はバイトか幹事が担当する。
  - 7) そのほか
    - ・学内の地図を添付したメールを林行事幹事が musha で告知する。
    - ・会誌の「研究会だより」の該当箇所に学内の案内図を挿入することは可能。林行事幹事から金田編集幹事地図を送ること。
    - ・懇親会は秋田ビューホテル、懇親会司会は水田会員に依頼済み。
    - ・座長はメールで推薦者を募り、行事委員から本人に依頼する。
    - ・領収証は小松原総務幹事が作成し、諸井財政幹事に送って押印してもらう。
    - ・次回幹事会で表彰状を校閲。武村会長が持参すること。
3. 国際第四紀学連合大会(2015 年・名古屋市)の共催依頼について
    - ・国際第四紀学連合から 2015 年 7 月~8 月に名古屋市で行われる第 19 回大会への共催依頼が出されているが、どう対応するか。共催するか、後援か協賛でよいとするか、議論した。
    - ・共催は難しいので、後援することに決定。
  4. 「関東地震 90 周年記念シンポジウム」(8 月 27 日)
    - ・日本地震学会・日本地震工学会と共催
    - ・武村会長が巡検案内・講演。
  5. 「関東大震災 90 周年・横浜の関東大震災記念講演会」(9 月 1 日)
    - ・横浜市ふるさと歴史財団主催・歴史地震研究会共催
    - ・武村会長が講演。
  6. 東京都慰霊協会がイベント公募中。9 月 3 日から 1 週間程度のイベントとなる見込み。北原会員がシンポジウム開催予定。オープニングで武村会長が講演。ただし共催ではない。
7. 編集幹事報告
    - ・7 月末発行に向けて鋭意編集作業中。投稿論文部分のみで 95p を超える見込み。
    - ・今後、分担して行うべきことは以下の通り。
      - 1) 第四回幹事会の議事録を確定させてウェブ公開する(総務幹事担当)
      - 2) 研究会便りを金田編集幹事が作成するので、出来上がり次第早急に内容を確認する(幹事全員)
      - 3) 前田印刷からは昨年並みの金額で印刷する予定といわれているがページ数・印刷数により値段が変わる。確定したらメール審議で発注承認をお願いしたい。
      - 4) 諸井財政幹事が会費の振込用紙と送付先リストを準備する。送付先リストについては、金田編集幹事にメールで送る。可能ならば来週半ばまでに送付先人数だけでも知らせてほしい。

- 5) 振込用紙の印刷には時間がかかるので、諸井財政幹事が確認のうえ、金田編集幹事と受け渡し方法について相談する。
- 6) カラー口絵ページは1pの予定。出版後、諸井財政幹事が著者に振り込み依頼を送付する。
- 7) 編集補佐は6時間×2日の見込み。時給は1000円として、諸井財政幹事が指定口座に謝金を振り込む。

#### 8. 広報幹事報告

- ・秋田大会の告知(8学会)
- ・秋田大会のお知らせ第2報をホームページに掲載
- ・秋田大会のお知らせ第2報を地震学会ニュースレターに投稿
- ・メーリングリスト関係:mushaに5名が新規加入

#### 9. 総会対応

- ・対外的活動の報告内容について確認
- ・各委員会報告記事を9月上旬までに総務幹事宛に送るよう依頼
- ・総会運営メモの検討
- ・総会議長の推薦

#### 10. 入退会申請・承認

- ・常石康弘氏の退会を承認
- ・塩川太郎氏・苅谷愛彦氏・高橋恭平氏・鳥田晴彦氏・島津奈緒未氏・山品匡史氏・高岸冴佳氏・鳴橋竜太郎氏・兵藤守氏・畠山幸司氏・八柳信之氏(合計11人)の入会承認

#### 11. 会費長期未納者対応

- ・昨年・一昨年の2年間にわたって会費を納入していない人および連絡先不明の人には会誌を送付しない。
- ・開始送付停止者リストを財政幹事は編集幹事に伝え、28号から会誌の送付を停止すること。

#### 12. 次回幹事会日程9月6日17:00～地震予知総合研究会会議室で行う。

#### 4. 第30回歴史地震研究会(2013年9月14~16日,秋田大会)関係

### 第30回歴史地震研究会講演申し込み案内

第29回歴史地震研究会開催のお知らせ(第1報)

歴史地震研究会では,2013年9月14日(土)~16日(祝日)の3日間にわたって,秋田大学(秋田市)にて第30回歴史地震研究会大会を開催いたします.

《日程》

9月14日(土)

午前・午後 研究発表会1日目

夕方 歴史地震研究会総会

9月15日(日)

午前 研究発表会2日目

午後 公開講演会

夕方 懇親会

9月16日(月;祝)

巡検(二ツ井地震,日本海中部地震の跡などを見学予定)

《公開講演会について》

秋田県における地震や津波災害に関する公開講演会を9月15日(13:30~17:00)に行います.

仮題 『歴史地震から秋田県の防災を考える:東日本大震災を踏まえて』

会場 秋田大学

(〒010-8502 秋田市手形学園町1-1 秋田大学教育文化学部 JR秋田駅東口から徒歩12分)

《各種申し込みについて》

#### 1. 研究発表の申し込み

電子メールまたはファックスにて発表者リスト(筆頭発表者は歴史地震研究会会員に限ります),発表タイトル,希望発表形式(口頭・ポスター・いずれも可)をお知らせ下さい(5月末日必着).発表形式は必ずしもご希望に沿えない場合があることをご了承願います.なお,口頭発表ではPC接続可能な液晶プロジェクタ(PCは発表者が持参願います)が使用できます.OHP,スライドプロジェクタは使用できませんのでご注意願います.

研究発表申し込みの送付先:

・電子メールの場合

rekishi13%eri.u-tokyo.ac.jp(%を@に置き換えて下さい)

行事委員会:林信太郎(委員長),水田敏彦,白石睦弥

・郵送の場合

〒010-8502 秋田市手形学園町1-1 秋田大学教育文化学部地学研究室 林信太郎 宛

封書の場合,「歴史地震研究発表会申し込み」と表書きをお願いいたします.

・ファックスの場合

FAX番号 018-889-2655

#### 2. 予稿原稿の投稿

発表1件につきA4サイズ1ページ,カメラレディ(そのまま印刷可能な)原稿をご用意願います.白黒印刷に配慮した作成(特に図や写真)をお願いいたします.原稿は原則としてWordファイルを電子メールでお送りください.やむを得ない場合は郵便にてお送り願います.7月末日必着といたします.

予稿原稿の送付先:研究発表申込先と同じです.

### 3. 懇親会・巡検・昼食の申し込み

電子メール、郵便、ファックスのいずれかにてお申し込み下さい(7月末日必着)。

巡検の申込においては保険加入のため、氏名のほか住所・生年月日・電話番号(携帯可)をお知らせください。巡検のバスは定員約40名ですのでお申し込みは先着順となります。

昼食は会場付近のコンビニ等で買う事が可能です。14日、15日の両日に弁当の販売も予定しています(予約のみ)。昼食の必要な場合は、日付もお知らせください。

懇親会・巡検の申し込み先：研究発表申込先と同じです。

#### 《参加費(予定)》

研究発表会(資料代込): 会員 1,000 円, 非会員 2,000 円

懇親会: 5,000 円程度(学生割引有)

巡検: 5,000 円程度

昼食弁当: 600 円程度(14日, 15日)

#### 注意事項

研究会では宿泊の手配はいたしません。秋田駅周辺には多くのホテルがございますので、旅行会社や宿紹介サイト等をご参照いただき、各自ご予約ください。また、秋田大学周辺の各種レストランは休日営業をしていないところが大部分です。

プログラム等研究発表会の詳細は次号(7月発行)の地震学会ニュースレターと歴史地震研究会ホームページにてお知らせする予定です。

## **第30回歴史地震研究会 プログラム等**

### 第30回歴史地震研究会(秋田大会)のお知らせ(第2報)

歴史地震研究会では、9月14日(土)から16日(月)の3日間にわたって、秋田市にある秋田大学手形キャンパスで、第30回歴史地震研究会大会を開催いたします。研究発表会のほか15日午後には秋田大学地域創成センターとの共催で、公開シンポジウム『歴史地震から秋田県の防災を考える：東日本大震災を踏まえて』を開催します。また16日は1704年岩館の地震による崩壊によってできたとされる十二湖などを巡る現地見学会を行います。

会場：秋田大学教育文化学部3号館(手形キャンパス)255室(講演会), 150室(ポスターセッション), 145室(公開講演会), JR秋田駅西口から徒歩15分, タクシーで5分

# 手形地区施設配置図

Tegata Campus Map





<プログラム>

9月14日(土) 研究発表会・ポスターセッション・総会

受付開始：8:30～

参加費：歴史地震研究会会員 1,000 円，非会員 2,000 円，学生無料  
(研究発表会・シンポジウム参加費・予稿集代)

【研究発表会】会場：秋田大学教育文化学部 3 号館 255 室

I 台湾の地震 (9:00 9:30)

1. 植村善博

1935 年台湾新竹 - 台中地震における被害と地形環境

2. 塩川太郎・植村善博

1935 年台湾新竹 台中地震，台中州の地震記念碑について

II 九州，近畿の地震，津波，噴火 (9:40 10:55)

3. 島津奈緒未・壇一男・鳥田晴彦・一徳元・本村一成

1914 年桜島の地震の震源規模の推定

4. 松岡祐也

1596 年豊後地震における被害の再検証 豊後府内を除く地域について

5. 松崎伸一・平井義人

寛永海部大分大野三郡図に記された上関村

6. 大邑潤三

文政京都地震(1830)による亀岡盆地の被害分析

7. 高野宏康

福井震災後における丸岡城の再建と「町民意識」

III - i 南海トラフの地震 (前半) (11:05 11:50)

8. 中西一郎

『谷陵記』に書かれなかった高知県東洋町「野根」の宝永地震被害

9. 松尾裕治・中野晋・村上仁士

高知県沿岸集落における「亡所」に着目した宝永地震津波の現地調査

10. 三神厚

南海地震による高知市の河川堤防被害

昼休憩 (11:50 13:10)

【ポスターセッション】会場：秋田大学教育文化学部 3 号館 150 室

IV ポスター (13:10 14:10)

11. 山品匡史・久保篤規・大石佑輔

高知大学地震観測所所蔵の昭和南海地震の被害写真について

12. 兵藤守・安藤和人・馬場俊孝・堀高峰

歴史資料の波高データにもとづく南海トラフ地震発生シナリオの制約

13. 畠山幸司・高原卓司

長野県北西部の巨大地すべり群と中世に発生した大地震

14. 石辺岳男・村岸純・佐竹健治  
1885 年以降に関東及びその周辺で発生した中～大地震の類型化（その 1） - 既往研究とデータの収集・整理 -
15. 松浦律子・中村操・小田桐睦弥  
安政江戸地震に関する印東家文書：江戸城回りの被害情報
16. 行谷佑一・佐竹健治  
869 年貞観地震の規模の再検討：津波堆積物と浸水深を考慮したシミュレーションに基づく
17. 今給黎哲郎・林保・小門研亮・住谷勝樹  
明治から昭和初期の測量記録（原簿）の電子化

【研究発表会】場所：秋田大学教育文化学部 3 号館 255 室

III - ii 南海トラフの地震（後半）（14:10 - 16:00）

18. 鳴橋竜太郎  
五ヶ所湾湾奥部における安政東海地震津波の浸水深分布
19. 磯田道史  
静岡市付近の宝永津波史料 波高推定の可能性をさぐる
20. 都司嘉宣  
元禄地震津波(1703)の大名領被害記録を完全に読み解けばどうなる？
21. 今村隆正・北原糸子・千葉達朗  
元禄地震で発生した土砂災害(神奈川・山梨県域)

休憩（15:10 15:15）

22. 石橋克彦  
684 年と 887 年の間に未知の南海トラフ巨大地震があるか？
23. 松浦律子  
1605 年慶長地震は南海トラフの地震か？
24. 浪川幹夫  
鎌倉における明応・慶長年間の 津波 について

V 中部地方の地震（16:05 - 16:50）

25. 武村雅之・都築充雄  
熱海・伊東の関東大震災を歩く
26. 藤原治・石辺岳男・千葉崇・佐竹健治・金子浩之・市川清士  
伊豆半島東岸伊東市における津波堆積物の掘削調査
27. 河内一男  
1918 年信州大町地震の断層運動とそのテクトニックな意味
28. 野越三雄・王寺秀介・中村亮一  
秋田最古の 830 年天長地震を探る

VI 関東の地震（16:55 - 17:40）

29. 中西一郎  
1923 年関東地震直後の京都帝国大学の活動：(4) P 波初動分布と震源（続）
30. 武村雅之

神奈川県中部の関東大震災を歩く

31. 村岸純・佐竹健治

1703 年元禄関東地震・津波により生じた生活環境の変化

【歴史地震研究会総会】（17:45 - 18:45）

9月15日(日) 研究発表会・公開講演会・懇親会

【研究発表会】場所：秋田大学教育文化学部3号館255室

VII 日本海の地震と津波（8:00 - 9:30）

32. 西村裕一・中村有吾・Nadia Razjigaeva・Larisa Ganzei・Kirill Ganzei・Victor Kaystrenko

ロシア沿海州における歴史時代及び先史時代の津波堆積物調査

33. 二木敬右・石井寿・中村亮一

天保四年(1833年)の庄内沖地震による輪島での津波高さの再検討-DEMを利用した検討-

34. 都司嘉宣・岩瀬浩之・原信彦・岩渕洋子・今村文彦

佐渡の沿岸集落での歴史津波の浸水高さ

35. 相原淳一・駒木野智寛・大畑雅彦

山形県飛島の津波堆積層と遺跡との関係 - 特に考古学的な視点から

36. 羽鳥徳太郎

日本海沿岸における2011年東日本地震津波の様相

37. 平川一臣

日本海東縁の津波堆積物：巨大津波履歴と課題

VIII 東北の地震，津波，噴火（9:40 - 10:55）

38. 水田敏彦・鏡味洋史

1894年庄内地震の調査日誌・紀行文から読取る被害状況

39. 林信太郎

1801年（享和元年）に発生した鳥海山の火山泥流

40. 栗山知士

西暦857年（天安元年）比内地震に伴う崩壊地形（予察）

41. 小田桐（白石）睦弥

メディアから見る三陸津波～青森県を中心に～

42. 蝦名裕一

ビスカイノ報告における慶長奥州地震津波の記述について

IX 土砂災害及び地震全般（11:05 - 12:05）

43. 井上公夫・相原延光

関東大震災による白糸川の大規模土砂移動

44. 相原延光・井上公夫

関東大震災前後の天気予報について - 予報係藤原咲平のプロ魂 -

45. 樋口茂生・東 将士・稲田 晃・伊藤彰秀・岩本広志・上加世田 聡・川崎健一・楠 恵子・佐

藤伸司・品田正一・末永和幸・渡辺拓美

続 現代生成層 - その災害との関わり -

46. 西山昭仁  
歴史地震における被害評価方法の試案

昼休憩 (12:05 13:00)

【公開講演会】

『歴史地震から秋田県の防災を考える：東日本大震災を踏まえて』

開 場：13:00

日 時：2013年9月15日(日) 13:30~16:10

会 場：秋田大学教育文化学部3号館145室(60周年記念ホール)

13:30 13:35 ご挨拶

13:35 - 14:05 穴倉 正展「古地震研究と東日本大震災」

14:05 - 14:35 小松原 琢「秋田県周辺の活断層と歴史地震」

14:45 - 15:15 水田 敏彦「秋田県で発生した明治以降の歴史地震とその教訓」

15:15 - 15:45 伊藤 和明「日本海中部地震を振り返って」

15:45 16:05 質疑応答

閉会の言葉 武村 雅之(歴史地震研究会会長)

【懇親会】

時 間：18:00~20:00

会 場：秋田ビューホテル(秋田駅近く)

会 費：5,000円(学生3,000円)

9月16日(月) 巡検

「二ツ井地震，岩館地震，日本海中部地震の跡を訪ねて」案内者 林，小田桐

08:30 秋田駅前(東口)出発

09:50 二ツ井着

二ツ井地震(1955)で落下した響橋の遺構見学

10:20 二ツ井発

11:10 八峰町 チゴキ崎灯台着

慰霊碑の見学

11:40 チゴキ崎灯台発

11:50 八峰町八夕八夕館で昼食

12:50 八夕八夕館発

13:30 十二湖着

岩館地震(1704)による崩壊地の観察，青池，ブナの森の見学

15:30 十二湖発

16:50 秋田空港着

17:20 秋田駅着 解散

参加費：1人 5,000円(昼食込み；予定)

## 5. 各種お知らせ・資料

### 『歴史地震』原稿募集のお知らせ

会誌『歴史地震』では、通年、投稿を受け付けておりますが、2014年7月末発行予定の次号(第29号)に掲載希望の方は、2014年1月17日(金)までにご投稿をお願いいたします。

#### 1. 募集原稿の内容

『歴史地震』は、歴史上の地震・火山噴火ならびにそれに関連する諸現象・諸問題を対象とする記事で構成し、記事の種別として、論説、資料、講演要旨、報告、紹介を取り扱います。編集出版委員会では、第29号を次の記事を中心に構成する方針です。

- (1) 2013年9月の第30回歴史地震研究会での発表内容に関連する記事
  - (2) 昨年までの研究会で発表された内容、あるいはそのほかのオリジナルな内容に関する記事
  - (3) 2013年9月の第30回歴史地震研究会の講演要旨集に掲載された講演要旨
- これらのうち、(1)(2)の投稿をお待ちしています。

#### 2. 編集体制と編集方針

『歴史地震』は以下の編集体制・方針を取っております。

1. 編集出版委員会で編集作業を進めます。
2. 論説および資料については、査読制を取り入れています。少なくとも1名の査読者が原稿を読んで意見を著者にフィードバックし、不備を指摘・訂正していただきます。
3. 原稿を作成する標準的な体裁「『歴史地震』の標準形式」を定めています。この形式に従ったWordファイルが歴史地震研究会のウェブサイト (<http://sakuya.ed.shizuoka.ac.jp/rzisin/>) からダウンロードできますので、このWordファイルを書き換える形で原稿を準備されることをお奨めします。
4. 電子ファイルでの投稿を奨励します。少なくとも本文は電子ファイル(フロッピーディスク等あるいはメール)で投稿していただくと、編集作業が効率的に行えますので、ご協力をお願いいたします。
5. 昨年より「投稿シート」(次頁に記載)を大幅にリニューアルしておりますので、必ずこのシートに必要事項をご記入のうえ、このシートとともにご投稿ください。「投稿シート」は上記ウェブサイトからもダウンロードできます。
6. 最終原稿は、印刷物としての『歴史地震』のほか、PDF版として歴史地震研究会のウェブサイトで一般に公開します。原則として、印刷物はモノクロで刊行します。
7. その他詳細は、編集規定をご覧ください。

#### 3. 投稿先

・電子メールでご投稿の場合: [histeq@erc.adeq.or.jp](mailto:histeq@erc.adeq.or.jp)

添付ファイルが5MB以上の大きさになる場合には、宅ふぁいる便などのファイルアップロードサイトをご利用になるか、CDなどに焼いてご郵送ください。

1週間以上経過しても受領の連絡がない場合には、ファイルを受け取ることができていない可能性がありますので、お手数ですが、上記アドレスまで再度お問い合わせください。

・郵送でご投稿の場合: 〒263-8522 千葉県稲毛区弥生1-33

千葉大学大学院理学研究科地球科学コース 金田平太郎 宛

・ご投稿の際には、忘れずに「投稿シート」もご提出ください。

## 『歴史地震』投稿シート

ver.201207

### < 基本情報 >

|        |             |   |                         |
|--------|-------------|---|-------------------------|
| 記事の種類  | 論説・資料・報告・紹介 |   | 論説および資料の場合は、査読の対象となります。 |
| 記事タイトル |             |   |                         |
| 著者     |             |   |                         |
| 連絡責任者  | 氏名          |   |                         |
|        | 所属          |   |                         |
|        | 郵便番号        | 〒 |                         |
|        | 住所          |   |                         |
|        | 電話番号        |   |                         |
|        | 電子メールアドレス   |   |                         |

### < 質問・チェック事項 >

#### 記事について

|  |        |
|--|--------|
| (1) 記事の内容は過去の歴史地震研究会で発表した内容ですか？                        | はい・いいえ |
| ・「はい」の場合、発表年および開催場所をご記入ください                            |        |
| 発表済の場合は、編集出版委員会の判断で、通常2名以上の査読者を1名とすることができます(論説、資料の場合)。 |        |

#### 体裁・形式について

|   |        |
|---|--------|
| (2) 原稿は、歴史地震研究会ウェブサイトからダウンロードした標準形式のWordファイルを書き換えて作成したものですか？  | はい・いいえ |
| ・「いいえ」の場合、以下の標準形式に従っていることを十分に確認してください。<br>A4 サイズ、左右の余白各2cm、上下の余白各2.5cm<br>フォントは和文が明朝体、英文がTimes<br>文字サイズは、和文タイトル16pt、英文タイトル12pt、所属・著者名10.5pt、英文要旨10.5pt。<br>著者の連絡先は和文の所属に脚注として加える。<br>キーワードは英文要旨の次の行に Keywords: xxxx, www, zzz. のように記入する。<br>キーワードの下でセクションを切り替え、本文は2段組とする。段の横幅は8cm、段の間は7mm程度、1行22文字、1ページ45行とする。<br>本文の文字サイズはすべて10.5pt。 |        |

|   |        |
|---|--------|
| (3) 記事の種類が「論説」あるいは「資料」の場合、英文の表題、英文の著者名・所属、英文要旨(200 語程度)、英文キーワードを備えていますか？  | はい・いいえ |
| (4) 句読点は「,」と「.」で統一されていますか？<br>されていない場合は検索・置換ツールを使って統一してください   | はい・いいえ |
| (5) 本文中で和暦と西暦が混同されるおそれはないですか？<br>歴史地震研究会では、混同を避けるため、和暦には漢数字(宝永四年十月四日など)、西暦にはアラビア数字(1707年10月28日など)を使うことを推奨しています。 | はい・いいえ |
| (6) 西暦1582 年以前の西暦は(グレゴリオ暦ではなく)ユリウス暦を用いていますか？  | はい・いいえ |
| ・「いいえ」の場合、使っている暦の種類が明記されていますか？  | はい・いいえ |

#### 図・写真について

|  |            |
|--|------------|
| (7) 既公表の文献(自分で公表したものも含む)や機関・個人が所蔵している史料から転載した図や写真はありますか？   | はい・いいえ     |
| ・「はい」の場合、出版社・学会や機関、個人に転載許可をとっていますか？  | はい・いいえ     |
| (8) 製本(印刷)版でカラー図・写真の掲載を希望しますか？   | はい・検討中・いいえ |
| ・「はい」もしくは「検討中」の場合、希望する図・写真の番号をご記入ください  |            |
| <p>カラー図を希望された場合、本文中にはモノクロの図が掲載され、そのカラー版が口絵として巻頭に再掲される格好となります。なお、カラー頁料金(例年、1頁あたり22000円程度)が発生します。</p> <p>歴史地震研究会ウェブサイトで公開される電子版(PDF版)では、希望の有無に関わらず、フルカラーとなります。</p> |            |
| (9) カラー掲載しない図について、モノクロ印刷で必要な情報が判読・識別可能ですか？   | はい・いいえ     |

## 歴史地震研究会会誌編集規定(2007年10月4日制定, 2009年7月23日一部改定, 2012年8月8日一部改定)

### 総則

1. 本規定は, 歴史地震研究会(以下, 本会)の会誌の投稿, 査読, 編集および出版に関する手順と規則を定めるものである。
2. 本会が発行する会誌の名称は, 『歴史地震』とする。英文では, Historical Earthquakes と表記する。
3. 本会の会員は, 会誌に原稿を随時投稿できる。また, 会員以外からの投稿も適宜受け付ける。
4. 編集出版委員会は, 会員または会員以外に記事の執筆を依頼することができる。
5. 本誌の質を高めることを目的として, 査読制を採用する。査読の対象とする記事の種別, および査読の手順と基準は, 細則に定める。
6. 会誌の記事の投稿から出版までの順序は次のとおりとし, 詳細は細則に定める。
  - (1) 投稿者は, 編集出版委員会に原稿を提出する。
  - (2) 編集出版委員会は, 投稿された原稿を速やかに受け付け, 受付日を記録する。また, 原稿毎に編集出版委員会の構成員のうちから編集担当者を決定する。
  - (3) 編集担当者は, 投稿された原稿を細則に定める基準に従って点検し, 必要と判断した場合は, 著者に修正を要求することができる。
  - (4) 査読の対象となる原稿は, 以下の査読手順を経ることとする。
    - a) 編集出版委員会は, 会員または会員以外から査読者を選定する。
    - b) 査読者は, 細則に定める基準に従って原稿を点検し, 編集出版委員会に意見を提出する。
    - c) 編集出版委員会は, 投稿された論文の掲載の採否を, 査読者の意見に基づいて決定する。
  - (5) 編集出版委員会は, 掲載を可とした原稿について, 受理日を記録する。
  - (6) 投稿者は, 原稿を校正および清書した後, 最終原稿を編集出版委員会に提出する。
7. 各事業年度の会誌の発行号数および部数は, 総会が決議した事業計画に沿う。また, 会誌に掲載した記事は, 本会のホームページで公開する。
8. 会誌に掲載された記事の著作権は, 本会に帰属する。
9. 記事の著者は, 個人ホームページおよび所属機関リポジトリページ等において, 記事の電子ファイルを公開することができる。ただし, 以下の点をすべて満たすことを条件とする。
  - (1) 本会ホームページで公開している電子版記事(PDF)を用いること。別刷として著者に配付される高解像度 PDF や冊子版記事をスキャンして作成した電子ファイルの公開は認めない。
  - (2) 記事の著作権の本会への帰属を明記すること。
  - (3) 記事の出典を明記すること。

### 細則

#### (原稿の種別)

1. 会誌は, 歴史上の地震・火山噴火ならびにそれに関連する諸現象・諸問題を対象とする記事で構成する。記事の種別は, 論説・資料, 講演要旨, 報告・紹介, 研究会記事とする。
2. 記事の種別は, 次の基準で分類する。
  - (1) 論説・資料は, 次のいずれかであり, 査読の対象となる。
    - a) 著者による未発表の新知見を含む研究成果を記した論文
    - b) データ・文献・史資料を系統的に収集・整理・分類し, 研究に寄与する価値を有する論文
  - (2) 講演要旨は, 直近の研究発表会または講演会で発表済みの研究成果の要旨である。
  - (3) 報告・紹介は, 研究集会の報告, 研究プロジェクトの紹介, 著書の紹介など, 新しい情報に関する短い記事である。
  - (4) 研究会記事は, 本会の活動に関する報告または連絡の記事である。原則として, 幹事会または各委員会が執筆する。



3. 記事の刷り上り時の分量は A4 判で、論説・資料は 3～20 頁、講演要旨は 1～2 頁、報告・紹介は 4 頁以下を標準とする。ただし、編集出版委員会が特に必要と認めた場合は、この限りではない。
4. 記事の構成は、次のとおりとする。
  - (1) 論説・資料および報告・紹介は、表題(和文と英文)、著者・所属(和文と英文)、要旨(英文 200 語程度)・キーワード(英文 5 語程度)、本文(和文、図・表・引用文献を含む)で構成する。ただし、報告・紹介では、要旨とキーワードを省くことができる。論説には対象とした地震名を引用文献の前に明記する。
  - (2) 講演要旨は、表題(和文)、著者・所属(和文)、本文(和文、図・表・引用文献を含む)で構成する。ただし、英文で表題、著書・所属を加えてもよい。
- (投稿者)
5. 投稿者は、記事の種別、著者の連絡先を明記して、郵送または電子メールで編集出版委員会宛に原稿 1 部を提出する。A4 判の用紙で標準書式になって原稿を作成することが推奨される。
6. 依頼により原稿を執筆する著者に対して、本会は幹事会が決定する額の謝礼を支払うことができる。
7. 投稿者は、編集出版委員会から査読者の意見と編集者の判定を受け取った後、原稿を点検し、必要な修正を加えた修正稿を編集出版委員会に提出する。
8. 投稿者と査読者の意見が対立した場合は、投稿者は編集担当者に対して、編集出版委員会が別の査読者を選定して意見を求めるよう請求できる。
9. 投稿者は、編集出版委員会からの受理の通知後、高品質に印刷した最終稿および電子原稿をすみやかに編集担当者に提出する。電子原稿は、編集出版委員会が定める標準書式に従って作成することが推奨される。
10. 投稿者は、付則に定める掲載料を支払わなければならない。
- (編集担当者)
11. 編集担当者は、投稿された原稿を以下の点について判定する。
  - (1) 明白な誤りがないか
  - (2) 内容が会誌の対象の範囲に合致するか
  - (3) 記事の種別が適切か
12. 論説・資料として投稿された原稿について、編集担当者は、細則 11 項による編集担当者自らの判定と、査読者の意見を基に、原稿の取り扱いを次の中から決定する。
  - a) 掲載可
  - b) 修正を条件に掲載可
  - c) 修正後に再査読し、その後に再度判定
  - d) 編集出版委員会で協議して取り扱いを判定
  - e) 掲載不可
  - f) 原稿種別の変更ただし、原稿の不備が改善しうると期待できる場合は b)、原稿種別を変更すべき場合は b)、原稿に相当大幅な修正を要する場合は c)、複数の査読者の意見が大きく異なる場合は d)、原稿に修正困難な明白な誤りがある場合は e)、細則 1 項に定める会誌の対象の範囲に合致しない場合には e)、原稿種別を変更して掲載する場合には f)、と判定する。但し、f)の場合には原稿の文末に編者注を付け、編集者により変更に至った経緯を明記する。
13. 講演要旨および報告・紹介の編集担当者は、必要に応じて投稿者に修正を求めることができる。
- (査読者)
14. 査読者は、査読を通じて会誌の質を高めるよう努める。
15. 査読者数は、論説・資料は 2 名以上とする。ただし、直近の研究発表会または講演会で既発表の内容に基づく原稿については、編集出版委員会の判断で、査読者数を 1 名とすることができる。編集出版委員会が査読者を選定し、依頼する。
16. 査読手続きに必要な郵送料は本会が負担する。また、会員以外の査読者に対して、本会は幹事会が決定

する額の謝礼を支払うことができる。

17. 査読を依頼され、専門分野などの理由で査読が不可能と判断した場合は、すみやかに、編集出版委員長または編集担当者へ通知することとする。また、査読者は、専門分野などの理由で必要な場合、編集担当者を通じて、査読者の追加あるいは会員による助言を要求できる。
18. 査読者は、内容に明白な誤りがある場合、表現が不適切な場合、論理に問題がある場合、原稿の種別が適切でない場合のいずれかに該当する原稿に対しては、改善意見を述べることとする。また、論説・資料については、細則 2 の要件を満たしているか否かを判定し、編集担当者に対して、原稿の取り扱いについての意見を示すこととする。

(その他)

19. 編集出版委員会は、特定のテーマを設定して会誌の原稿を募集し、会誌に特集を編むことができる。
20. 編集出版委員会は、投稿者の参考のために原稿の標準書式を、査読者の参考のために原稿点検の標準チェックシートを、それぞれ作成する。

付則

1. 掲載料は次のとおりとする

(1) 連絡担当著者が会員の場合

全頁モノクロであり、かつ細則 3 に定める標準の頁数以内であれば、掲載料は無料とする。カラーの頁を含む場合は、モノクロ頁との印刷経費の差額に相当する実費をカラー頁分が掲載料として課される。また、標準の頁数を超過した場合は、会誌発行経費の頁単価に、超過分の頁数をかけた額が掲載料として課される。

(2) 連絡担当著者が非会員の場合

会誌発行経費の頁単価に、印刷時の頁数をかけた額が掲載料として課される。カラーの頁については、会員と同じとする。

(3) 依頼による執筆の場合は、前二項によらず、掲載料は無料とする。

2. 本規定は、2013 年発行の『歴史地震』第 28 号より適用する。

## 歴代研究会開催地一覧

これまでの開催地と、特集した地震をまとめた。なお 2014 年は候補予定である。

| 回  | 年    | 場所      | 特集地震    | 回  | 年    | 場所      | 特集地震         |
|----|------|---------|---------|----|------|---------|--------------|
| 1  | 1984 | 東大地震研   |         | 17 | 2000 | 長野      | 善光寺          |
| 2  | 1985 | 東大地震研   |         | 18 | 2001 | 象潟      | 象潟           |
| 3  | 1986 | 東大地震研   |         | 19 | 2002 | 立山      | 飛越           |
| 4  | 1987 | 東大地震研   |         | 20 | 2003 | 佐倉・九十九里 | 元禄           |
| 5  | 1988 | 静岡      |         | 21 | 2004 | 鳥羽      | 安政東海         |
| 6  | 1989 | 東大地震研   |         | 22 | 2005 | 江戸東京博物館 | 安政江戸         |
| 7  | 1990 | 大阪      |         | 23 | 2006 | 大船渡     | 明治・昭和三陸・チリ津波 |
| 8  | 1991 | 徳島      |         | 24 | 2007 | 下田      | 安政東海         |
| 9  | 1992 | 東大地震研   |         | 25 | 2008 | つくば     | 関東           |
| 10 | 1993 | 江戸東京博物館 |         | 26 | 2009 | 大津      | 姉川・元暦        |
| 11 | 1994 | 須崎      | 安政南海    | 27 | 2010 | 東大地震研   |              |
| 12 | 1995 | 田老町     | 明治・昭和三陸 | 28 | 2011 | 新潟      | 名立崩れ         |
| 13 | 1996 | 田辺      | 昭和南海    | 29 | 2012 | 横浜      | 関東           |
| 14 | 1997 | 島原      | 島原      | 30 | 2013 | 秋田      |              |
| 15 | 1998 | 浜名湖     | 明応東海    | 31 | 2014 | 名古屋     | 東南海          |
| 16 | 1999 | 伊賀上野    | 伊賀上野    |    |      |         |              |

## 歴史地震研究会への入会手続きのご案内

歴史地震研究会に入会をご希望の方は、次頁の申請書に必要事項を記入して、係(諸井幹事)までお送り下さい。

送り先:(株) 小堀鐸二研究所 諸井孝文 (当会財政委員長)

〒107-8502 東京都港区赤坂 6-5-30

FAX:03-5561-2431 電子メール: moroi@kajima.com

## 歴史地震研究会入会申請書

歴史地震研究会会長 武村 雅之 殿  
 歴史地震研究会への入会を申請いたします

年 月 日

|            |                         |                   |       |
|------------|-------------------------|-------------------|-------|
| ふりがな<br>氏名 |                         | 関連分野              |       |
| 生年月日       | 年 月 日                   | 性別                | 男 ・ 女 |
| 所属機関       | 名称・部署                   |                   |       |
|            | 住所<br>電話番号・FAX<br>電子メール | 〒<br>TEL:<br>FAX: |       |
| 自宅         | 住所<br>電話番号・FAX<br>電子メール | 〒<br>TEL:<br>FAX: |       |
| 会誌送付先      |                         | 1. 所属機関           | 2. 自宅 |

----- きりとり -----

- 注1: 申請書に記された情報は歴史地震研究会の活動以外の目的には使用しません。  
 注2: 会員に配布される名簿に記載されることを希望しない項目は()内に記入してください。  
 注3: 希望する会誌送付先に 印を記してください。

名簿欄記入例 (自宅情報は非開示, 所属先に会誌送付希望の場合)

|            |                         |  |           |
|------------|-------------------------|--|-----------|
| ふりがな<br>氏名 | じしん さぶろう<br>地震 三郎       | 関連分野   | 災害科学      |
| 生年月日       | 19 年 月 日                | 性別   | 男 ( ) ・ 女 |
| 所属機関       | 名称・部署                   | 歴史地震研究所・災害研究課  |           |
|            | 住所<br>電話番号・FAX<br>電子メール | 〒000-0001 東京都弥生区文京 1-1-1<br>TEL: 00-0000-0001 FAX: 00-0000-0002<br>@ . |           |
| (自宅)       | 住所<br>電話番号・FAX<br>電子メール | 〒000-0001 東京都弥生区文京 マンション耐震 1-1<br>TEL: 00-0000-0003 FAX:<br>@ .net.jp  |           |
| 会誌送付先      |                         | 1. 所属機関 ( )  | 2. 自宅     |

## 歴史地震研究会会則

(2000年10月1日制定, 2002年9月7日改定, 2006年9月16日改正,  
2008年9月14日改正, 2012年9月15日改正)

### 第1章 総則

(名称)

第1条 本会は、『歴史地震研究会』(The Society of Historical Earthquake Studies)という。

(目的)

第2条 本会は、歴史上の地震ならびにそれに関連する諸現象・諸問題に関して、理学、工学、人文科学、社会科学、および防災科学の研究を促進し、相互の情報交換を行うとともに、一般市民を交えた知識の共有と相互理解をはかることを目的とする。

(事業)

第3条 本会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

- (1) 研究成果発表会および講演会
- (2) 会誌の刊行
- (3) 広報活動
- (4) 歴史地震研究に関する業績の表彰
- (5) その他、必要な事業

(事務所)

第4条 本会は、事務所を東京都千代田区猿樂町 1-5-18 公益財団法人 地震予知総合研究振興会に置く。

(事業年度)

第5条 本会の事業年度は、毎年9月1日に始まり、翌年8月31日に終わる。

(会則改正)

第6条 この会則は、総会において、表決権を持つ出席者の3分の2以上の賛成により、改めることができる。

(規定)

第7条 この会則の実行に必要な規定は、幹事会の議を経て別に定める。

### 第2章 会員

(会員)

第8条 本会は次に定める会員からなる。

- (1) 会員 本会の目的に賛同する個人

第9条 会員は付則に定める年会費を、各年度始めに納入しなければならない。

(会員の特典)

第10条 遅滞なく会費を納めている会員は、次の特典を有する。

- (1) 会誌の配布を受けること
- (2) 研究発表会において、研究成果を発表すること
- (3) 会誌へ論文などを投稿すること
- (4) 総会に出席し、表決権を行使すること
- (5) 総会または幹事会に対して議論すべき事項を提案すること

(入会)

第11条 会員になろうとするものは、所定の申し込み書を会長に提出し、幹事会の承認を得なければならない。

(退会)

第12条 退会しようとする会員は、会長に退会届を提出しなければならない。この場合、未納会費がある時は、それを全納しなければならない。

(入退会時期)

第 13 条 会員の入退会は、事業年度を単位とする。

(除名)

第 14 条 本会の会員として著しく不適切な行為のあったと判断されたものは、幹事会の議を経て、会長はこれを除名することができる。

### 第 3 章 役員

(役員)

第 15 条 本会に、次の役員を置く。

- (1) 会長 1 名
- (2) 副会長 1 名
- (3) 幹事 5 名
- (4) 監査役 2 名

第 16 条 会長は会員の中から総会で選出する。

- 2 副会長および幹事は会長が会員の中から委嘱する。
- 3 監査役は会員の中から総会で選出する。
- 4 会長および監査役の選出手続きは付則に定める。

第 17 条 会長は本会を代表し、会務を総理する。

- 2 副会長は会長を補佐し、会長不在時には会長を代行する。
- 3 幹事は幹事会を構成し、かつ総務、財政、行事、広報、編集出版の各委員長をつとめる。
- 4 監査役は本会の業務の執行および会計を監査する。
- 5 各委員会の委員は委員長が選任し会長が委嘱する。

### 第 4 章 総会および幹事会

(総会の招集)

第 18 条 総会は年 1 回、会長が招集する。総会は会員の 10 分の 1 の実出席を要する。委任状は発行しない。

(総会の決議事項)

第 19 条 総会では次のことを行う。

- (1) 次期会長の選出
- (2) 次期監査役の選出
- (3) 前年度の事業経過および決算報告と、その承認
- (4) 次年度の事業計画および予算案の提案と、その承認
- (5) 会則の改正
- (6) その他

(幹事会)

第 20 条 幹事会は会長が招集し年 2 回以上行う。議長は会長が行う。その他幹事からの提案で、臨時に開くことができる。幹事会は幹事の 2/3 以上の参加をもって成立し、決定は出席者の過半数をもって行う。幹事会は代理出席を認める。

### 第 5 章 会計

(資産)

第 21 条 本会の事業は会費、寄付金、事業に伴う収入および雑収入によって行う。

(事業計画・予算案)

第 22 条 本会の事業計画およびこれに伴う予算は、会長および財政委員長がこれを幹事会の議を経て作成し、総会の議決にもとづき執行する。

(事業計画・収支決算の監査)

第 23 条 本会の事業報告および収支決算は、会長および財政委員長がこれを作成し、監査役の監査を経て幹事会および総会において承認を受けなければならない。

#### 付 則

第 1 条 第 10 条による会費は、次の通りとする。

会員 3000 円

第 2 条 第 16 条による会長選出手続 会長候補者は 3 名以上の推薦者をもって立候補し、総会の 1 週間前までに幹事会に届け出る。

第 3 条 第 16 条による監査役選出手続 監査役は 3 名以上の会員による推薦を受けた者の中から総会で選出される。推薦者ないし被推薦者は総会開催前に幹事会に届け出る。

第 4 条 本会則は、2008 年 9 月 15 日から施行する。

#### 組 織

##### 総務委員会

文書の受付、配布、会誌『歴史地震』の発送

歴史地震研究発表会の開催に関する事項

##### 財政委員会

予算の編成、決算に関する事項および研究会の財政に関する企画

普通会员の入退会、除籍に関する事項および名簿に関する事項

##### 行事委員会

歴史地震研究発表会の開催に関する事項および他学会協賛に関する事項

##### 広報委員会

歴史地震研究発表会および会誌『歴史地震』の広報に関する事項

##### 編集出版委員会

会誌『歴史地震』の編集出版に関する事項

## 歴史地震研究会功績賞内規

平成 24 年 9 月 15 日幹事会承認

第 1 条 本規定は、歴史地震研究会会則第 3 条(4)項に規定する業績の表彰に基づき、歴史地震研究の進歩・発展ならびに本会の発展に対して顕著な功績を挙げられた方に贈る「歴史地震研究会功績賞」に関して定める。

第 2 条 本賞の対象は、本会会員とする。なお、本賞の既受賞者は対象から除く。

第 3 条 対象業績は歴史地震研究の進歩・発展、歴史地震研究会の発展に対するものとする。

第 4 条 授賞式は、会員総会の場において行い、受賞者に賞状を贈る。

第 5 条 功績賞選考委員会が受賞者の選考を行い、幹事会が決定する。功績賞選考委員会は、正・副会長、総務幹事、財政幹事から構成する。

附則；1. この内規は、幹事会で変更することができる。

2.この内規は、平成 24 年 9 月 15 日より施行する。

## **歴史地震研究会役員および委員名簿**

### **役員名簿**

会長 武村雅之

副会長 松浦律子

幹事 小松原 琢, 諸井孝文, 林 信太郎, 石辺岳男, 金田平太郎

監査役 永井九一, 中村 操

### **委員名簿**

総務委員会 委員長 小松原 琢

財政委員会 委員長 諸井孝文

行事委員会 委員長 林 信太郎 委員 水田敏彦, 小田桐(白石)睦弥

広報委員会 委員長 石辺岳男

編集出版委員会 委員長 金田平太郎 委員 小田桐(白石)睦弥, 行谷佑一